

川で学ぼう

～川とふれあう学習～

『ふるさとの水・川』を テーマに水の大切さを学ぶ』

江尾小学校

江尾小学校では、今年の4年生の「総合的な学習の時間」のテーマを『ふるさとの水・川』として、一学期から二学期にかけて勉強しています。江府町は、町内から湧き出る奥大山の源流水を原料に天然のミネラルウォーターや地ビールを全国販売するなど、水を活かした地域づくりを進めている町です。この学習を担当している加藤尚子先生によると、児童たちは水が江府町の自慢の一つだと理解し、暮らしに身近な水について一度勉強してみたいという気持ちが強かったそうです。

総合学習は、児童自身が追求したいテーマを決めて、調べて学んでいく授業です。まず4年生の児童20名が四つのグループに分かれて、町の暮らしの中で身近な「湧き水」について、その特徴や生活・農業での使われ方などを調べました。続いて7月には、日野川の支流で町内を流れる船谷川に全員で入って体験学習をしています。



江府町立 江尾小学校

明治6年に第133番小学江尾学校として開校した歴史のある小学校です。児童数は112名(平成17年5月1日現在)。「学びを創造しよう! 自ら進んで」をテーマに、「確かな学力の育成」「認め合い支え合う人間関係づくり」「児童の心を育むコミュニティづくり」など、自分の思いを大切に、自ら進んで学びを創造し、人とふれ合いながら自分のめあてや夢に向かってチャレンジし続ける児童の育成を目指しています。

船谷川は、地元の祭り「江尾十七夜」で魚のつかみ取りが行われるなど、子ども達にとって身近でなじみ深い川です。体験学習では、ペットボトルで水中メガネをつくって、「川の水の中をもっと知りたい」とのぞき込む児童たちもあったそうです。船谷川での学習も、川に入れたことの喜びをきっかけとして「釣りをしてみたい」「ごみをひろいたい」「虫を調べたい」と興味がどんどん膨らんでいきます。

加藤先生は、「この学習を通じて暮らしの中の水に興味と関心を持って、自分たちの住んでいる江府町が自然に恵まれていることのありがたさを感じてほしいです。町の人が自然を大切にしたい町づくりに取り組んでいることも理解して、子ども達にも取り組んでいってほしいですね」と話しています。



船谷川での体験学習の様子

